

XX-7. 瑞浪コハクに含まれていたシロアリ科と ゾウムシ類の化石について

(Insecta : Isoptera and Coleoptera Curculionoidea)

森 本 桂 *

1. シロアリ科 Termitidae の 1 種

(等翅目, シロアリ科)

所検標本数と標本番号: 個体数 2, 標本番号 68.

保存状態: 2 個体とも職蟻で, 1 個体は頭部と肢を含む胸部がよく保存されているが, 他の 1 個体は肢と頭部(コハクの状態から触角しか見えない)のみである.

測定値: 標本の状態から測定はできなかった.

同定理由:

- a. 眼がない……ミゾガシラシロアリ科とシロアリ科の特徴
- b. 頭部に比べて前胸が小さい……ミゾガシラシロアリ科とシロアリ科の特徴
- c. 前胸背板は鞍状で, 前方に張りだした部分がある……シロアリ科の特徴
(コハクを溶かして大腿を調べると属が決定できる)

近縁の現生種に関する知見と考察:

この科には世界から115属1,350種が知られ, 化石も第三紀層やコハクの中から40種が知られている.

シロアリ科の分布北限は沖縄本島と黄河であるが, 中国と日本の分布を比較すると, 後氷期に中国大陸では北へ分布を拡げることができたのに対し, 琉球列島では海によって北進を妨げられたと見ることができる. 今回この科の化石が日本から発見できたことは, 過去の分布を示す点で極めて重要であり, 標本の大腿から属の決定ができれば現生種の分布との対比から当時の気候を推定する資料となりうる.

シロアリは一般に乾燥に弱く, 特に白色の職蟻が直接空気に触れることは殆どなく, 常に蟻道か材中で生活している. 今回の標本中に 2 個体が並んで発見されたことは, 樹脂が流れ落ちる際に蟻道を洗い落した可能性がある.

2. *Curculio* sp. シギゾウムシの 1 種

(鞘翅目, ゾウムシ科, シギゾウムシ亜科)

所検標本数と, 標本番号: 個体数 1. 標本番号 79.

保存状態: 頭部のみで, 触角は両方ともよく保存されている.

測定値: 触角中間節と球桿部のみ測定.

(40 = 1 mm)

	中間節							球桿部		
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3
長さ	11	7	5	5	5	5	5	5	5	6
幅	3	2.2	2.5	2.7	3	3	4	5.5	5.9	4.1

同定理由:

- a. 吻の形と大腿が縦に動く位置……シギゾウムシ亜科の特徴

* 林業試験場九州支場

b. 触角中間節が7節で、比較的細長い……シギゾウムシ (*Curculio*) 属の特徴
近縁の現生種に関する知見と考察：

この属には約350種が記録されているが、化石の記録があるかどうか不明。

この属の現生種のうち、今回の標本程度の大きさの種は、いずれも樹木の種子に産卵するものである。

標本の触角柄節が両側に開いている形は、死んだ直後の標本を水中に放置しておいた状態に似ているので、樹脂の粘度は低かったのではないと思われる。

3. *Nanophyes* sp. チビゾウムシの1種 (第XX-7-1図)

(鞘翅目、ミツギリゾウムシ科 (又はホソクチゾウムシ科)、チビゾウムシ亜科)。

所検標本数と標本番号：個体数 1。標本番号 103

保存状態：虫体は肢と触角を縮めた状態で、比較的良好は保存状態であるが、コハク片切断の際体の左側約 $\frac{1}{3}$ を削り取っている。

測定値：体長 1.92mm (吻を除く)、吻長 1.33mm

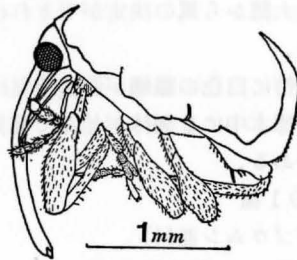
同定理由：

- a. 吻が長い……ゾウムシ上科の特徴
- b. 肢の転節が長い……チビゾウムシ亜科の特徴
- c. 触角中間節は5節。後腿節に大きな刺状突起と2小突起がある。……チビゾウムシ *Nanophyes* 属の特徴

近縁の現生種に関する知見：この属には約200種知られているが、化石の記録はない。

この属の生態：越冬は成虫で草や落葉下で行ない、春から初夏にかけて水辺の柔らかい草の茎に産卵、産卵から30~45日で新しい成虫になる。新しい成虫は雑食性で、広範は分散を行なう。

考察：今回の標本では、触角と肢の位置が生きているときと違うことから、樹脂に触れる前に死んでいたか、又は死んだあとでこの形になることができるほど樹脂の粘度が低かったことを示している。



第XX-7-1図 *Nanophyes*
sp. (Specimen No. 103).
チビゾウムシの一種